

プロ投資家
の

先の
先の
思考法
読む

ひふみシリーズ最高投資責任者

藤野英人

Hideto Fujino

はじめに

先の先^々を読むことができれば、
かなりの成功が約束される

私は子どもの頃、「10年後の新聞がほしい」と思っていました。

10年後の新聞が1日分でもあれば、未来にどんな日常が待っているのかがわかります。

10年後に起きていることのごく一部でも正確に知ることができれば、超お金持ちになれるでしょう。

かなりの成功が約束され、しなくてもよい失敗を避けることもできるはずです。

子ども時代に自分が夢想していたことを思い出すと、今を生きる人たちが未来の世界について少しでも知りたいと思うことは、ごく自然なことだと感じます。

いつたい、どうすれば未来を予測できるのでしょうか？

もちろん、私たちは10年後の新聞を手に入れることはできず、未来を見通せる魔法の水晶玉を持っているわけでもありません。

しかし私は、簡単ではないとはいえ、**未来を予測することはできると**思っています。本書では、「先の先」を読む思考力について、ファンドマネージャーとして32年以上の投資歴を重ねてきた、私の見方や考え方を紹介していきたいと思えます。

先読みとは小さな変化を捉えること

ここでいう「先の先」とは、「10年後、20年後の未来」です。

「投資家の先読み法」と聞くと、目先の株価の予測の仕方や、特殊な情報収集法などをイメージする人が多いかもしれませんが。

しかし、そもそも株価というのは、短期的には企業の人気や市場全体の動向などに左右されやすいものです。

実績とかけ離れて株価が動くこともめずらしくなく、**目先の株価を読み切って勝とうと**

するのはかなり難しいのが現実です。

また、「プロの投資家なら先読みのための早耳情報を知ることができるのではないか」というのも誤ったイメージで、情報開示に高い透明性が求められる昨今、「おいしい早耳情報」は存在しません。

大切なのは、そういった「見えない未来」を見ようとするのはなく、目の前で少しずつ起きていく小さな変化を捉えることです。そして、「この小さな変化の結果、10年後、20年後の未来はどうなるのか？」を考えることです。

10年後、20年後の未来を予測することができれば、投資で大きく成功する可能性が格段に高まるでしょう。

詳しくは本編でご説明しますが、企業の株価というのは、長期的にはその企業の利益に連動します。つまり、未来がどのような社会であり、そこに向かって成長するのがどのような企業なのかを読むことができれば、長期投資で資産を大きく増やせるわけです。

先の先を読むことのもう一つの意味

また、「先の先を読む」ことには、投資で勝つことだけでなく、重要な意味があると思っ
ています。それは、「先の先を読む」ことができる人であれば、「自分の居場所」を間違
えずにすむからです。

日本は「課題先進国」と呼ばれています。少子高齢化はすでに確定した未来であり、地
方が空き家だらけになることも、認知症の高齢者が増えることも間違いありません。

そのような情報があふれかえる中で暮らしている人も多いのではないかと思います。
「日本の未来は真っ暗だ」と考えている人も多いのではないかと思います。

私自身、いまだに古い価値観や考え方にとらわれたままの「昭和のオジさん」がはびこ
っている現状を見るにつけ、今は「令和4年」ではなく、まだ「昭和97年」なのだと思
うことも少なくありません。

実際、経営者から現場までが昭和の価値観で生きている「昭和97年型」の会社も、まだ
数多く存在しています。

しかしその一方、日本には新しい価値観や最先端の技術を前提とした「令和4年型」の会社もたくさん登場しています。

私は「令和4年型」の企業には大いに期待していますし、課題だらけの日本だからこそ、それらの課題を解決する商品・サービスを提供して大きく成長する企業が次々に現れると確信しています。その意味で、「日本の未来は明るい」というのが私の見立てです。

問題は、このような状況で自分の居場所をどこに定めるか、です。

「明るい未来」は、一様にすべての人に訪れるわけではありません。未来が明るいものになるか暗いものになるかは、じつは皆さん一人ひとりのポジションによって決まります。

私はこれからの20年間は、**居場所次第で右肩上がりの人と右肩下がりの人に、ほぼ二分される**だろうと考えています。

昭和97年型企業には過去からの資本の蓄積がありますから、もちろん明日、明後日に潰れることはありません。

しかし、これからの企業としての取り組み次第では10年後、20年後に潰れる可能性もあ

るでしょう。

冷静に「先の先」を読めば、昭和97年型と令和4年型の会社が混在する状況の中で自分がなにを選ぶべきか、おのずと見えてくるのではないのでしょうか。

多くの人は、目先のことばかりにとらわれてしまいがちで、目の前に危機が差し迫らなければ行動を起こすことができないものです。

この本を手にとってくださいました読者の皆さんには、「先の先」を読んで今起こすべき行動を起こし、明るい未来を感じながら令和時代を生きてほしいと願っています。

藤野英人

第1章

「先の先」を読むために「今」を知る

はじめに “先の先”を読むことができれば、かなりの成功が約束される 002

「先の先を読む」のは、トランプの神経衰弱のようなもの 016

「短期」は読めないが、「中期」は予測できる 019

投資の成功に学歴や容姿は関係ない 023

シンプルで公平なものになぜ投資で勝てないのか？ 024

今、起きている変化を“生活者”として捉える 027

コロナ禍のずっと前からテレワークの普及を読んでいた 030

おじさんには見えていない変化が若い人たちには見えている 032

大学3年生の女性エンジニアが開発したランプがおもしろい 035

先を読むために、自分を「令和型」にアップデートする 037

コラム01 私が毎日3つよかったことを書き続ける理由 041

第2章

「思考」を広げて先の先を読む

他者の視点を取り入れる

私が3万人のツイートを読み続ける理由

深夜のレストランで生活者の本音を拾う

1日の5%は他人になつたつもりで考える

044

047

050

拡大思考1

偏らず、フラットでいる

あなたの感覚は普通？おそらく普通ではない

物事を俯瞰して見るための着ぐるみトレーニング

052

055

拡大思考2

好き嫌いを大事にする

投資先を決めるのは「損得」ではなく「好き嫌い」

好きなことをやっている集団の方が勝ちやすい

057

060

拡大思考3

拡大思考4

遠回りしてみる

他のファンドマネージャーと異なるアプローチをとる理由

“王道”から外れることで見えたもの

069 066

拡大思考5

若い感性を取り込む

中高年になったら若い人の力を借りる

年下と上手に付き合う意味とは？

073 071

コラム02

「先の先」を読むための本の読み方

078

第3章

先の先を読むための「材料」の集め方

意識下で200のことを同時に考え続ける

080

人と会話することで「関心事」が再起動する

082

走りながら情報収集。60分の時間を3倍に活用する

084

並行していろいろやることで情報が化学反応を起こす

086

学ぶときは最初に集中するとい

089

社交ダンスからリーダーシップを学ぶ

091

「メスティンご飯」を作り続ける理由

094

美容を体験することで初めて美容をイメージできた

096

快・不快への想像力が高いほど「先の先」が見える

099

積み重ねる一方で、「アンラーニング」を行う

101

人間というのは放っておけばどんどん古くなる

104

コラム03

三日坊主を防ぐ魔法の考え方

108

第4章

今この時代に「伸びる会社」の共通点

- 成長する企業は「なぜ」を考え続ける 110
- 初めて会ったときに衝撃を受けた経営者の話 113
- 業界の秩序を乱すことを恐れない、経営者のすごみ 115
- 業界に風穴を開ける令和4年型企業を探せ 118
- 優秀な会社を探すのか、優秀な経営者を探すのか 122
- まるで恋人を選ぶように経営者を選ぶ 124
- 個人投資家が「企業の将来の力」を予測する方法 127

コラム04

「なぜ」を問いつける会社は強い

131

第5章

先の先に見えてきた「未来のかたち」

これからはウエルビーイングを追求する企業が成長する

134

富山県の成長戦略から考えるウエルビーイングの意味

136

豊かで強い県であるのに、なぜ出ていくのか？

139

女性が活躍することは女性にとつてウエルビーイングなのか

140

数十億円を儲けてなにを思ったか

143

「富」や「健康」より「PERMA」

146

お金や権力よりもずっと大切なこと

149

どうすれば幸福度を上げることができるのか

151

今後のテーマは「ポジティブ・インベストメント」

153

コラム05 「将棋」と「投資」は運動している

157

第6章

先を読むことと同じぐらい大切なこと

先の先を読んでも、行動を変えなければ意味はない

「失望最小化」で生きる人、「希望最大化」で生きる人

日本人の資産が欧米人より増えない理由

「勝つか負けるか」ではなく、「勝つか学ぶか」

「失敗から学べ」ではなく、「ミスをしろ」という教え

過去は変えられないが、起きたことの意味は変えられる

プランAは本当にプランAなのか？

あなたは素敵な次善の策を持っていますか？

コラム06 未来予測して「どうするか」を決めるのは自分自身

おわりに 自分が関与することで変わるかもしれない未来